

「2022年度韓国・延世大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部3年 伊藤実咲

①学習成果

今回のプログラムに参加した最大の目的は、近代の日朝関係及び現代の日韓関係について韓国側の視点から捉え、韓国の人々の考え方を知ることだったが、その目的は大いに達成することができたと思う。現地学生とのセミナーにおいては、朝鮮通信使を巡る相互認識や日本・韓国での歴史教育、現在の日韓関係をテーマにしたディスカッションを行ったが、韓国では李氏朝鮮時代の外交（朝鮮通信使含む）についてそれほど深く学ぶわけではないということ、教科書では近現代史に多くのページが割かれてはいるもののそれほど時間をかけて学ぶわけではないということ、ただし日本の植民地支配については詳しく学ぶということなどを知ることができた。また同じ歴史上の人物でも、日本と韓国とでは評価が大きく分かれているということを実感することもでき、非常に参考になった。また京大生向けに開講して頂いた特別講義では、タイムリーな徴用工問題への解決策に対する韓国国内における反応が取り上げられ、現代の日韓関係について理解を深めることができた。聴講させて頂いた講義では古代の日朝文化交流や中国における当時の日本・韓国認識がテーマとなっており、専門分野ではない時代の視点から日韓関係を捉える貴重な機会となった。これ以外にも、宿舎のテレビで見るニュース・バスの車内で聞こえてくるラジオ・空港鉄道の動画広告・博物館の展示解説パネルなど韓国で日常的に触れていたものが、時代を問わず両国関係を韓国側から考察する最高の素材であったように思う。加えて今回の韓国滞在中には徴用工問題の解決に向けた日韓首脳会談及びWBCの日韓戦も行われ、これらに対する韓国国内での反応を体感することができたことも非常に有意義であった。今後はこれらの学びを、近世近代移行期の日朝関係をテーマとする予定の卒業論文執筆に活かしていきたいと思う。

また今回のプログラムを通して、国際交流の重要性も改めて認識した。日韓関係を論じるにあたって問題となる歴史問題においては、先日の徴用工問題への解決策のように両国政府同士が合意できたとしても、国民レベルでは納得に至らずデモが行われるといったように、官民の間で意識に差があるように見受けられた。また現地学生との交流では、お互いの国における歴史教育についてほとんど知識を有していないということに気付いた。このような状況を打開するためには、草の根レベルでのやり取りを粘り強く継続し、互いに相手国の意識や考え方を知る努力をする必要があると思う。お互いがお互いに対して何を求めているのかを理解するためには、実際の交流が最良の手段であろう。今回の3週間のプログラムは、渡航前は長いように感じていたが、実際に参加した今となっては相互理解を行うにあたって十分な時間であるとは言えないと考えている。今後留学の機会があるのであれば、今度はより長期のものに挑戦してみたいと思う。

②海外での経験

今回のプログラムでは午後と土日が自由時間であったため、その時間を利用して多くの史跡や博物館を訪れた。

まずは史跡に関してである。釜山に行った際には、江戸時代に日朝外交を管掌していた対馬藩の在外公館的存在であった草梁倭館跡を訪れることができた。館守はこのあたりで執務をしていて、外交僧の詰め所であった東向寺はこのあたりにあって、などと想像しながら現地を歩くことができ、卒業論文執筆を本格化させるにあたっての良い刺激となった。また水原華城にも行ったが、この造成事業については前学期に東洋史の授業で漢文史料を取り上げつつ学んだところだったので、授業・漢文史料内容の記憶と現地を照らし合わせることができ、非常に面白かった。

続いて博物館に関してである。釜山博物館・国立中央博物館は日朝・日韓関係に関する展示が充実しており、

今まで翻刻版・影印版を扱ってきたような史料の実物や史料内に登場してきた文物を見ることができて嬉しかったのはもちろんであるが、展示解説のパネルを読むということも韓国における歴史認識を知る手がかりとなり、非常に面白かった。また国立故宮博物館では、日朝関係を考えるにあたって重要な知識である朝鮮王朝の制度や文化について詳しく学ぶことができ、参考になった。国立ハングル博物館は日本ではあまり見かけたことがない文字についての博物館で、韓国の人々が自国で独自に創り上げたハングルをととても誇りに思っているということが伝わって来た。延世大学校内の博物館にも行ったが、こちらも学校史のほか寄贈品の展示が時代を問わず充実していたように思う。

この他にもいくつかの博物館を訪れたが、私が学芸員課程を履修していることもあり、その運営方法や展示方法を参考にしたいと思う館が多いことも印象的だった。入館料は基本的に無料であるし、展示空間にはかなり余裕があったため、落ち着いて展示物を見ることができた。また映像は正面だけに投影するのではなく、側面・天井・床にまで投影することで臨場感を演出し、通り過ぎてしまいがちな映像展示に人々の足を止めさせる工夫がなされていることにも感動した。その他、ハンズオン展示や凹凸の付いた展示品紹介パンフレットを設置するなど、バリアフリー化にも積極的に取り組んでいる館が非常に多く先進的だと感じた。将来博物館運営や博物館行政に携わりたいと考えているので、その際にぜひ参考にしたい。

③プログラム内容

今回のプログラムは、平日午前(9:00-13:00)に延世大学校韓国語学堂の授業を受け、午後からは基本的に自由時間、週に2、3回授業を聴講するというのが基本的な流れであった。また、事前に準備していく現地学生とのセミナーが初週にあった。授業聴講とセミナーについては①学習成果で述べたため、ここでは韓国語学堂の授業について詳しく述べることにする。

韓国語学堂の授業はレベル別になっており、京大生の場合は事前語学授業の結果に基づいて級分けが行われた。ただし、当初配属された級が自分のレベルに合っていないと感じ、級変更を申請した学生が多かったように思う。授業は4コマで、1・2コマ目が文法、3コマ目がリスニング・リーディング、4コマ目がスピーキング・ライティングと四技能を全て扱うカリキュラムとなっていた。いずれの授業もペアワークが取り入れられるなど発言の機会が多いため、新出語彙や新出文法は比較的身に付きやすい環境が整っていると思う。またクラスメイトには様々な国出身の人がいるため、韓国語を勉強しながらも様々な国の文化を知ることができて非常に楽しかった。級によっては授業で習った食材・料理についての語彙を活用して調理実習を行う機会があり、私もプルコギチャプチェを作ったが、やはり実践的に語彙を使うと定着が早いように感じたし、同時に韓国の食文化についても理解を深めることができたように思う。最終日にはリスニング・リーディング・ライティングのテストがあったが、授業内容をきちんと復習するのが最良の対策だった。

④進路への影響

今回のプログラムに参加して日朝関係に対する関心がますます高まったため、これを刺激として新年度は卒業論文執筆を頑張りたい。また今回はソウルに滞在したが、日朝関係についてより深く理解するためには、歴史的に日朝外交の舞台であった釜山に滞在し様々な史跡・博物館を巡ったり、大学の教授から話を聞いたりするのが最良だと思うので、可能であれば釜山での長期留学に挑戦してみたい。学部生のうちに実現するのは困難だと思うので、大学院進学も視野に入れつつ進路を考えていく予定である。加えて今まで3週間も海外で生活したことはなく、渡航前はかなり不安であったが、実際に現地生活してみると、度胸さえあれば簡単な単語と身振り手振りで意思疎通を図ることでかなり快適に生活できるということが分かった。今後は韓国のみならず、様々な国を訪れて各地の文化に触れ、世界への理解を深めていきたいと考えている。

●お世話になった人に向けて一言 (韓国語)

제 한국 유학을 도와주신 모두 분께 진실으로 감사드립니다. 덕분에 한국에서 한국어를 재미있게 공부할 수 있고, 역사에 대해서 깊게 배울 수 있었습니다. 이 유학에서 배운 것을 잊지 않고, 앞으로도 공부를 계속하겠습니다.

●英語講義の感想 (英語)

Dear Professor Howard Kahm

Thank you very much for giving us special lectures. I major in Japanese History (especially the relationship between Japan and Joseon in the end of early-modern times and the beginning of the modern times), so I was really impressed by your stance to history: History is all about arguments. I realized again that the interpretation of history depends on people. Even though we talk about the same historical incident, it can happen that we have different opinions about it because we use different historical materials. It also can be possible that we use the same historical material and come to different conclusions lying on how we read that material. For that reasons it will be impossible to make "historical truth" clear or say "History knows the truth". However, I will try to reveal "historical facts" which is as close as what happened in the past by collecting reliable historical resources and interpreting those resources with evidences. I think it is necessary to make both Japanese and Korean understand each other and make the present Japan-Korea relationship better. I will never forget what I learned in Korea and by using those knowledges keep studying.